

2019年9月22日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「時を知る者」～大城実氏の哀悼の意を表して～

聖書：エステル記1:10～2:4

ペルシャ帝国の王クセルクセスが、即位 3 年目に国中の指揮官や様々な地位にある者を招いて、盛大な宴を 180 日間催した。この祝宴は、自分の力、この国の豊かさを内外に知らしめるものであった。その後、更に王宮のあるスサの町の人々を宮殿に招いて、今度は一週間宴会を続けた。その時一つの事件が起きる。宴会も 7 日目を迎えた時王は、突然王妃ワシュティを宴会の場に来るよう命じた。酒に酔った男連中に晒すのである。それを伝え聞いた王妃は命令を断わる。王妃にもプライドがあったということか。ただ、王の命令に背くことは、ただでは済まされない。

一人の女性のその態度が、全ての女性への抑圧へと向けられていった。新たに法律を作って、全ての女性が男に仕えるように、妻は夫に逆らうな！という法律を作っていく。王に呼ばれた、知識人側近が王の顔色をうかがうようにして、この法律は作られていく。13 節に「経験を積んだ賢人たち」とあるが、口語訳聖書では、「時を知っている知者」たち、となっている。時を知る知者とは、天文学や様々な文献を研究し、王が正しい判断を下せるように国の行く末を、正しい方向へと導く知恵を授ける者たちである。時には、王の考えを正す役割を担っている。口語訳聖書の 14 節に「彼らは皆王の顔を見る者で…あった」とある。それは即ち、天体を見ずに、文献を見ずに、この国の行く末を見ずに、王の顔色をうかがって全ての女性への抑圧へと向ったのである。本当に情けない話であるが、このような話は、私たちのこの時代も変わらずにあるもの。

この9月に行われは、第4次安倍改造内閣は、別名「在庫一掃」内閣とも言われるもので、みんな安倍首相の思いのままに事を進めるため、一人でも多くの仲間を作っておきたいという思いが見え隠れする。その最大の目的は、憲法改正に、何が何でも憲法9条を変えたい、そのためには仲間を増やし、いい思いをさせて首相に忖度できる者を多く起きたいということであろう。この国の行く末を案じてならない。

沖縄の現状もそう。沖縄の人々が、どんなにオスプレイはいらない、辺野古に基地は造らせない、高江にも基地は造らせない…と言っても、沖縄の民意を無視して、強行に推し進めて行く。日本政府はどこを見ているのか？決して沖縄を見ているとは言えない。アメリカの顔色しか見ていないということであろう。この国には、「時を知る者」はいないのか？国の行く末を、正しい方向へと導く知恵を提供していく者はいないのか？

ローマの信徒への手紙 13 章 11 節に「あなたがたは今がどんな時であるかを知ってい

ます」と…。神は、私たちに「今がどんな時か知りなさい」と教えている。そして、どこを見るべきなのか、何を見るべきなのか、を教えている。

先日、沖縄キリスト教学院大学の元学長、大城実先生が天に召された。先生は幼いころ沖縄戦にて足を切断するという大変な怪我をされながらも何とか生き延びて、その苦労の中から、「時を知る者」として常に平和の発信をキリスト者として続けて来られた方である。また一人、大切な方を亡くしてしまった。ご家族の慰めをお祈りいたします。

私たちは、「時を知る者」と成り得るか？教会は「時を知る教会」と成り得るか？ そのことを問われて行きたい。(神谷)